

九一 佐久間貞一の墨書の解読

これまでしばしば、秀英体を評して「瘦勁」と表してきた。

すなわち瘦身でありながらも、なおかつ勁いというところであった。

書法芸術界においては「顔筋柳骨」と呼ばれ、福建刊本の字様におおきな影響を与えた柳公権（七七八―八六五）の書が瘦勁の書としても著名である。

またさしたる解説も加えないままに、

「歴史の教えるところによると、意外に社風とか書風といったものは、創業者の風貌・嗜好・体軀・そして体臭のごときものから発することがある」と唐突に述べたことがあった。

それは例えていえば、現在の巨大な企業組織としての大日本印刷であっても、ほとんどの社員による電話の応対が、ほとんどみな同じトーンであることをみてもわかる。それは社員教育のためのものであると同時に、どこか「大日本印刷風」とでもいう雰囲気を感じだしていることを社員ですら知らないことが多い。組織とはおおむねそうしたものであり、伝統とはまた容易には変化しないものである。

すなわち事案としてAとBのふたつが提示され、上司がそれに判断を下す基準には、おのずからみえざる伝統とか社風といったものがその基底にあって、それにもとづいた判断が下されるものである。そしてそれはおのずから創業者に帰納される。また、

左図 唐・柳公権『玄秘塔碑』
柳公権の書は「筆画清瘦、筆力剛毅勁、用筆骨力居多、結体中宮収緊」とされる。代表作の『玄秘塔碑』は八四一年（唐会昌元）一二月に建立された。西安碑林博物館に現存している（陰刻拓本をボジ像に反転した図で紹介した）。

和 尚 其 出
雄 乎 天 水
世 為 秦 人



『佐久間貞一小伝』（昭和7年2月10日再版）口絵より。
明治4年11月9日鹿児島留学中の佐久間貞一が長崎において撮影したとある。
この年廃藩置県・廃刀断髪令が発令されている。中央・佐久間（千三郎）貞一、
右・旧高松藩士高橋館蔵、左・旧高松藩士太田（恒）正隆



『追懐録』(明治43年12月15日)口絵より、佐久間貞一。

送

石田温那之词有

杜鵑啼度客樓荒
初席
傷心苦夏了
男子友
然
兒女能心
如今臨別
轉濤

静島

貞一拜

あ
き
に
遊
び
し
し
老
の
を
し
ら
せ
り
法
の
を
し
ら
せ
り
か
か
し
か
り
ふ

秀英体研究 サンプルPDF

『秀英体研究』についてのお問い合わせ

大日本印刷株式会社
C&I事業部IT開発本部 秀英体プロジェクト（担当：伊藤・佐々木）

E-Mail : shueitai@lab.cio.dnp.co.jp
tel : 03-5269-5657
fax : 03-5269-6023